

# ＜落とし込みダブルギャフ、一般魚取り込みシステムの取り扱い説明書＞

—型式：WG6138G—

「ギャフ」の名称で特許が取得できた日本で唯一の製品  
高場からの単独ギャフ掛けを実現

## —落とし込みダブルギャフ、一般魚取り込みシステム仕様—

型式：WG6138G

寸法（設計値）

ギャフ（カエシ付き）：軸径6mm、フック軸径5mm、全長13.8cm、全幅7cm、フトコロ5.1cm

ロープ：径4mm×長さ13m（ナイロン編みロープ）

システム総重量：350g（うち、ギャフ自重180g）

適用範囲：0.7kg～10kg（最適範囲1.3kg～6kg、耐強度25kg）

適用高距：3（ルアーは2）m～12m

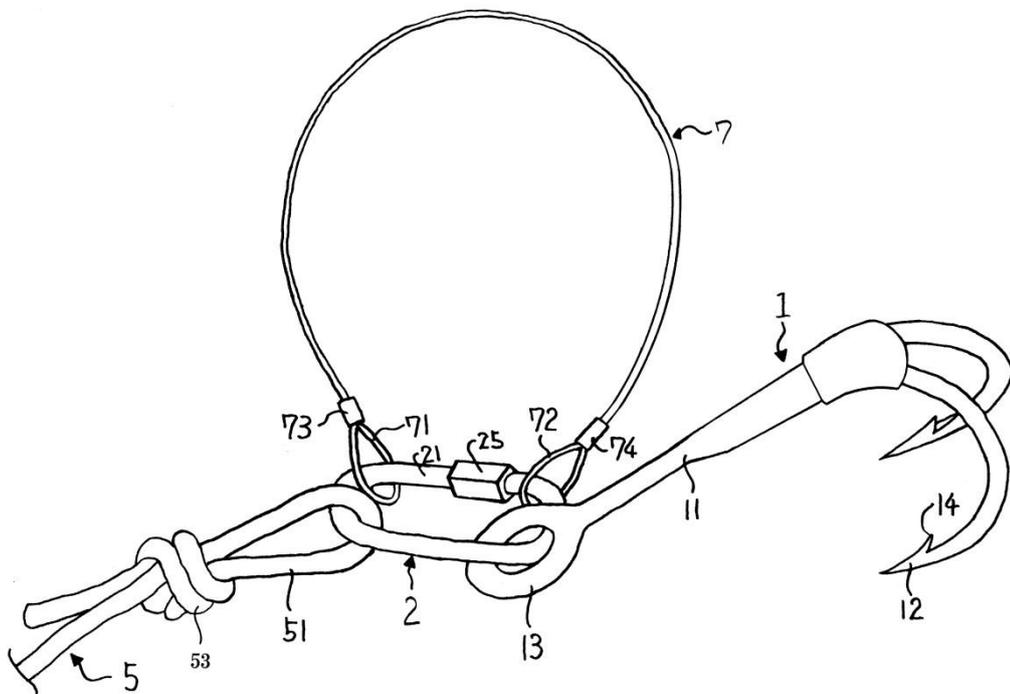
材質：ステンレス（フック部—高強度特殊鋼）

対象魚：シーバス、小型青物（ヒラゴ、ハマチ）、クロ、オナガ、イカ等何でもOK（カゴ釣りは小型カゴのみ可）

製法：ハンドメイド

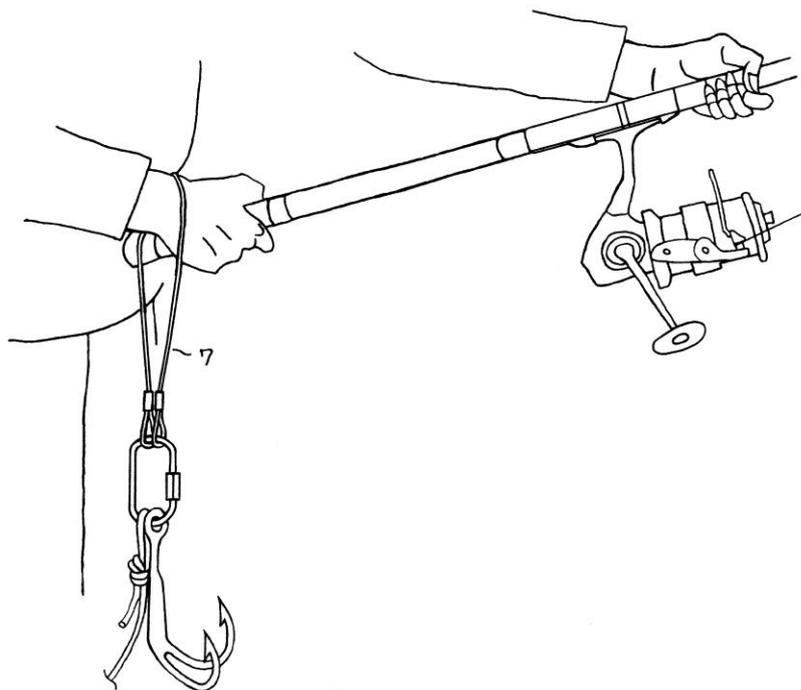
補足説明：基本カゴ無し浮き釣り（小型カゴのみ可）。ルアーはOK。ガイドが通らない特大リールはリールの前側での巻き付け方式も可能ですが、基本的にカゴ釣り又は大型リール使用の本格的SWルアー（メインターゲット5kg以上）には別途用意の青物用を推奨。

図1



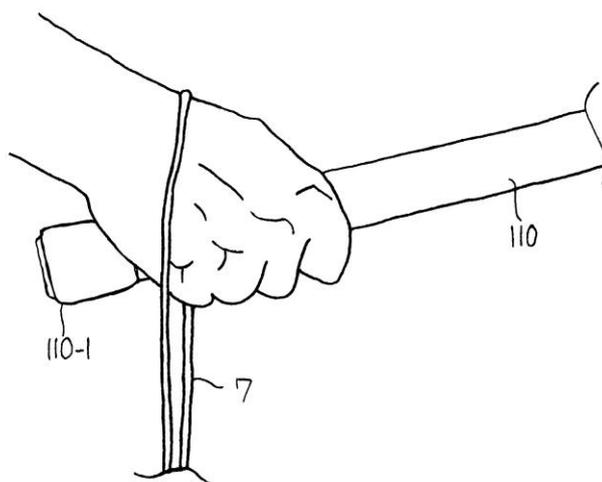
＜図1は一般魚取り込みシステムの全体図を示す＞

図 2



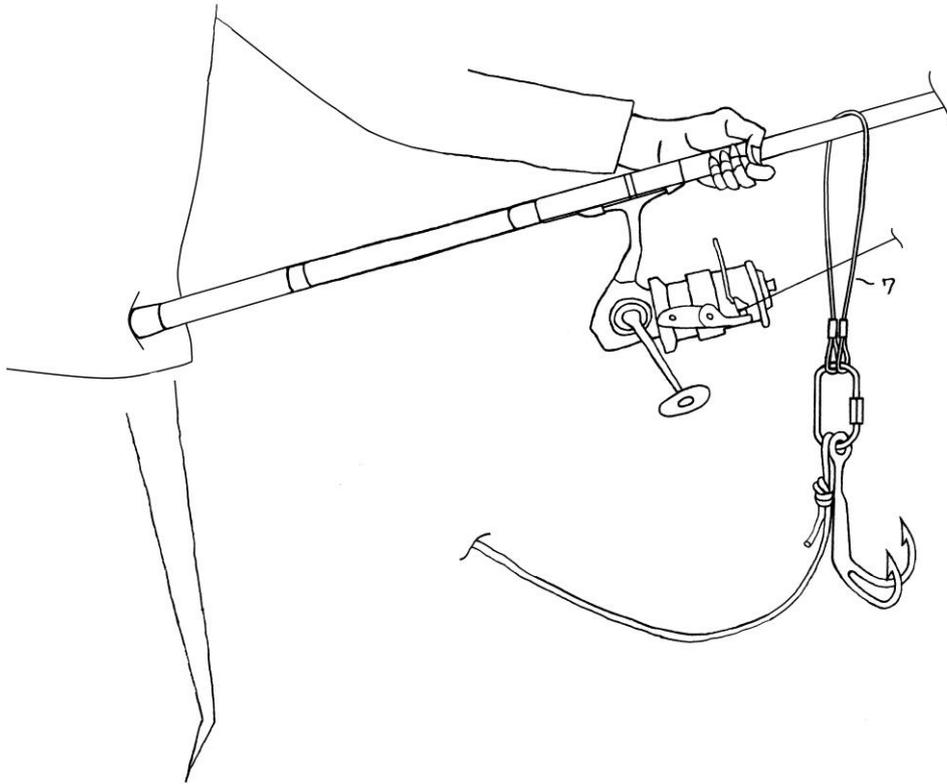
<図 2 は、竿尻通し方式を基本とする本システムのループ体（7）を手首に掛け、取り付けを開始する状況を示す>

図 3



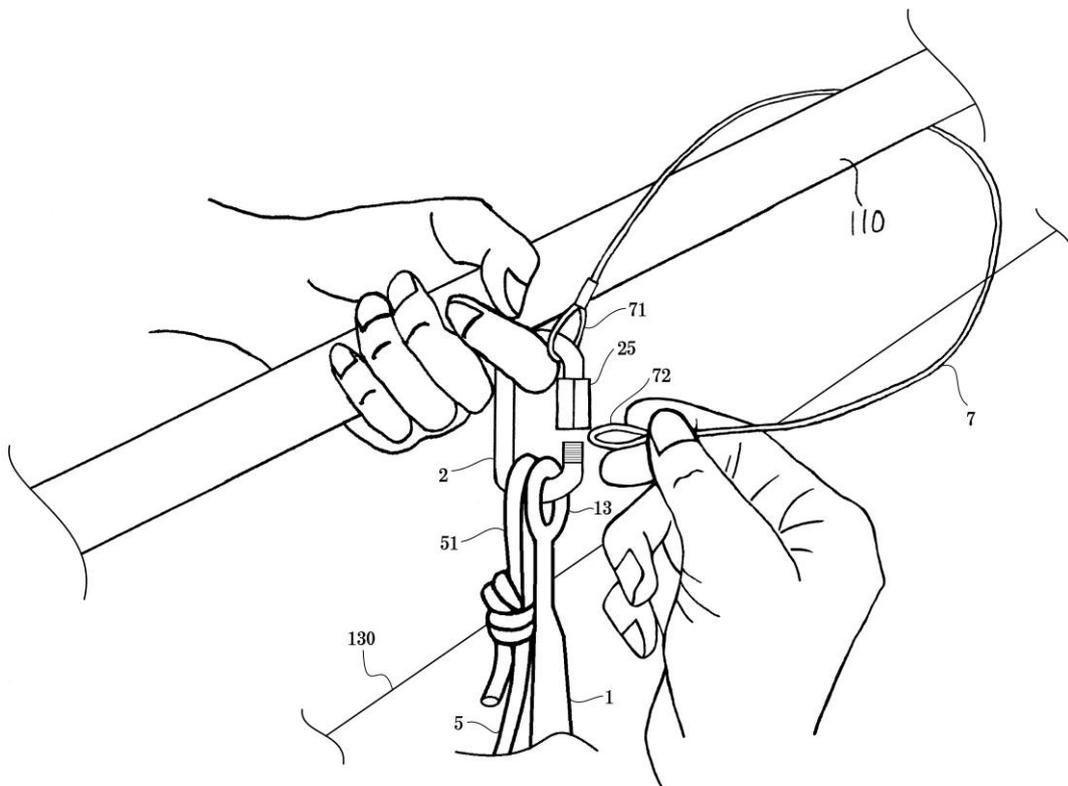
<図 3 は、ループ体（7）を手首に掛けたまま竿尻を腹部から離し、手首を起こす事により、ループ体が元竿上に通った状況を示す>この後、再び竿尻を腹部に戻す。

図 4



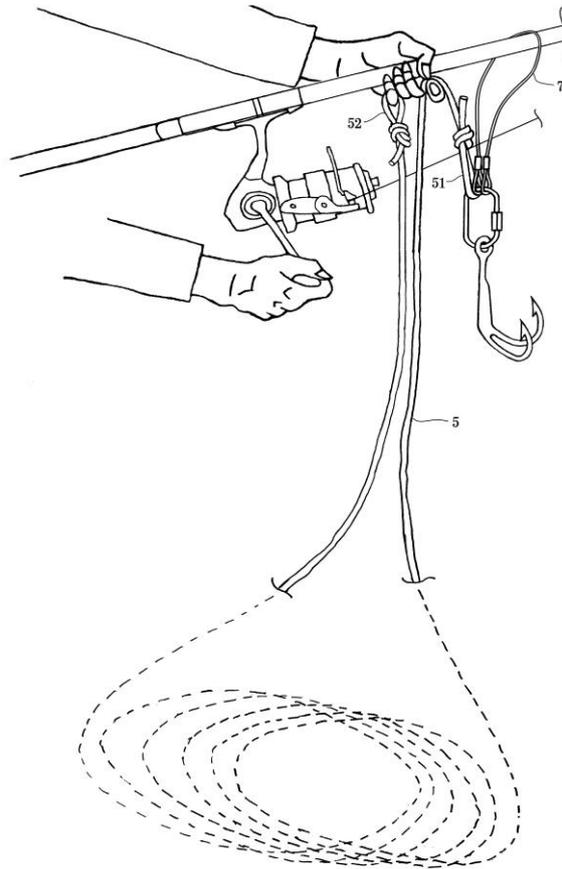
<図 4 は、元竿上に通ったループ体 (7) を前進させ、リールを越えてその前に出した状況を示す>

図 5



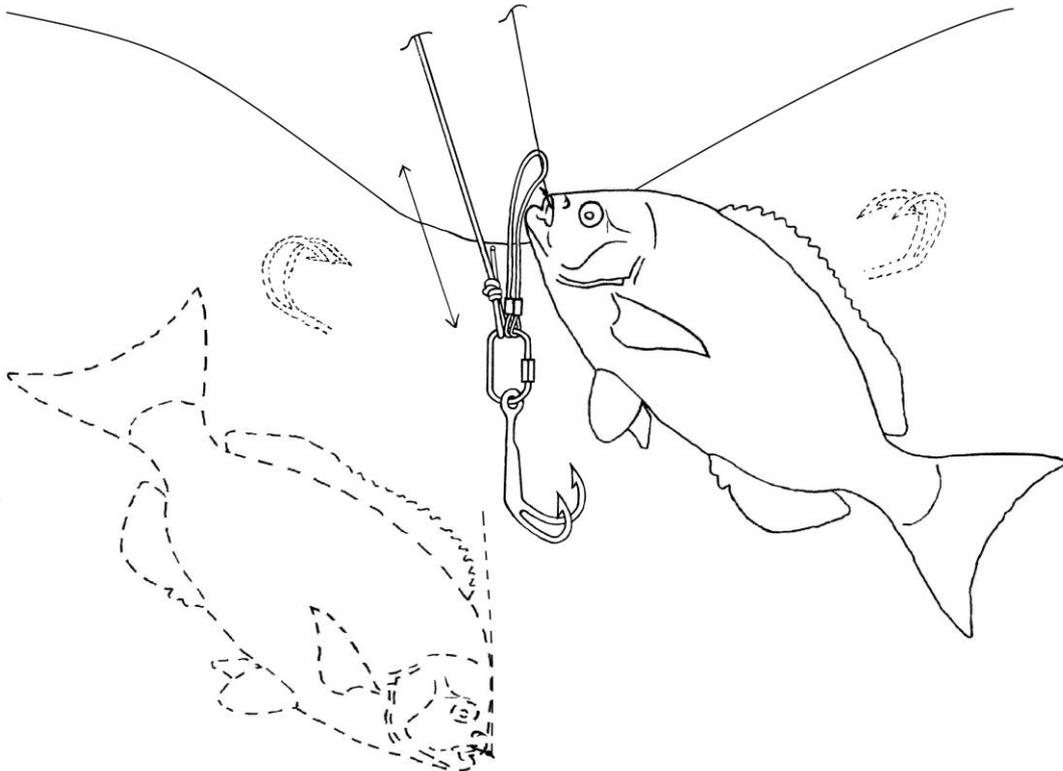
<図 5 は、リールが大きくて、ループ体がリールを越えられない場合に行う、巻き付け方を示す>リールの前側で巻き体 (7) として、道糸 (130) ごと竿 (110) に巻いてやり、事前に外した他端の小ループ部 (72) をカラビナ (2) に掛け、安全環 (25) を回し、ロックする (竿を立てたまま、片手で可能)。これにより、図 4 の状態になる。

図 6



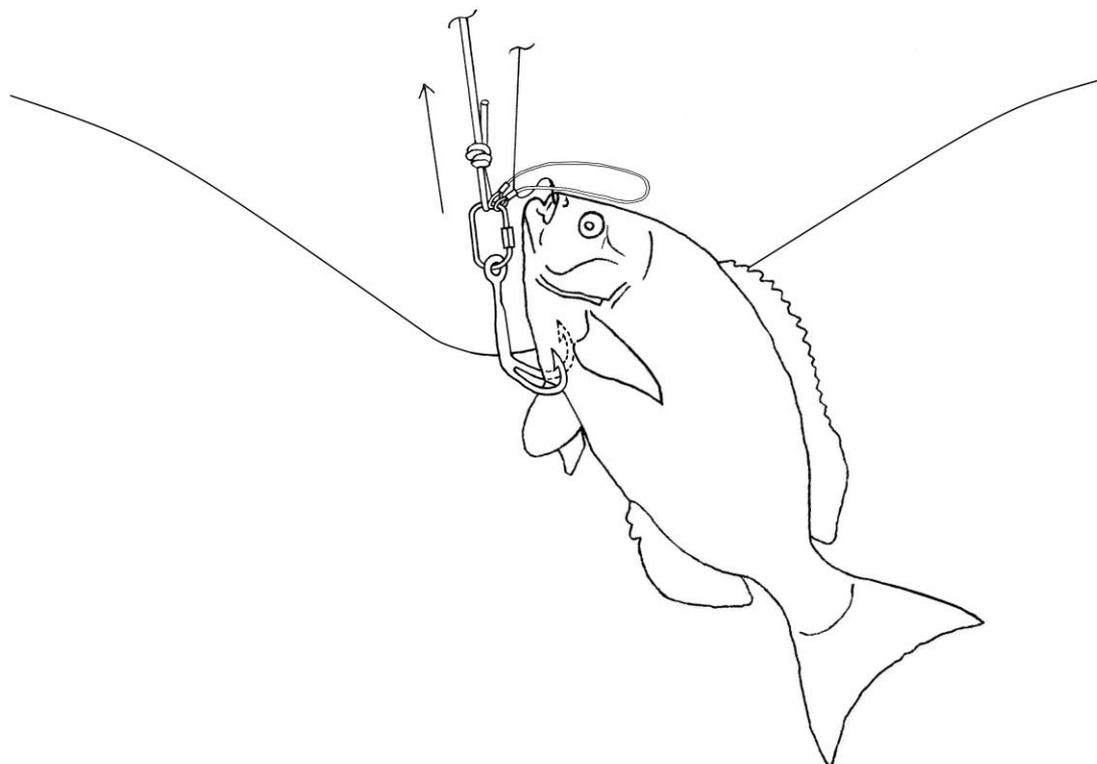
<図6は、落とし込みの準備が完了した、スタンバイ状態を示す>ギャフを引き付け、ロープを人差し指で押さえ、他端のループ(52)を小指に掛ける。

図 7



<図7は、フッキングのメカニズムを示す>ロープを掴んだ手を上下させてやると、程無くズシリと重みが掛かる。

図 8



<図8は、重みを感じた手で、強くロープを引っ張る事により、ギャフが食い込んだ状態を示す>食い込みがカエシ迄到達すれば、もはやギャフは外れない。

## 1) 序文

本落とし込みダブルギャフは高場からの単独取り込みを高い確実性で可能にするものです。本一般魚取り込みシステムは、ガイドの役目を果たすループ体7を竿尻から通してリールの前に出し（リールが大型でループ体がリールを通過できない場合は、ループ体7の他端72を事前に安全環付カラビナ2から外しておいて、取り込み時にリールの前側で、巻き体として道糸ごと竿に巻いて、カラビナに掛けてやる巻き付け方式を実行・・・GT、マグロ用特大リールを除いて通過できます）、その後竿伝い、道糸伝いにギャフを落とす使い方を基本とします。この点に於いて、道糸を手で掴んで道糸にガイドを掛ける従来方式とは基本的に異なります。本ギャフシステムの最大の利点は、単独での取り込みに於いても、竿を立てた状態を維持したまま（＝ラインテンションの喪失無く）ギャフのセッティングを完了出来る事であり、且つ、リールのドラッグが機能しない状態を一時的にも引き起こす事無く（＝高いサージテンションの発生無く）、ギャフのフッキングに到達出来る事があります。ギャフを落とす時には竿先を下げますが、此の時はリールを巻きながら下げる訳ですから、ラインテンションの喪失は起こりません。従来方式（ガイド道糸取り付け型ギャフ）で、ラインを手で掴めば、5m有る竿の弾力が無くなるわけですから、魚が手前に突っ込んだ場合等に、ラインテンションの喪失は避けられません。又、この状態では既に竿は横に置かれている訳ですから、リールのドラッグは機能しません。この時、魚が向こうに引っ張れば、高いサージテンションの発生は避けられません。これに対して、本ギャフシステムでは、単独であっても、竿の弾力とリールのドラッグ機能のこの二つを同時に維持したまま（＝魚のコントロールを維持したまま）、ギャフのフッキングに到達できます。

これにより、本落とし込みダブルギャフとそのシステム、及びギャフ掛け方法（取り込み方法、やり方）は特許が認められました（特許全八項目、特許第4988949号及び特許第4988970号、及び実用新案一項目、登録第3176635号）。其の詳細は特許庁ホームページの特許電子図書館で確認できます（「落とし込みダブルギャフ」は登録商標、登録第5540603号）。

## 2) 基本説明

本品は、システムの威力が絶大である為、フックの本数や針先の張り出しに頼る必要がありません（必ずフッキングします）。これにより、フックの本数を二本に抑える事ができ、且つ針先を内側に向ける事が可能となりました。これは二点の効果を実現します。第一は、引っ張った時のロープの方向と針先の方向が略一致する為、重みを感じてロープを強く引っ張る事により、ギャフをカエシ迄深く引き刺す事ができます（針先が外側を向いた従来ギャフはこれができません、掛ける術を持ち得ていない従来ギャフは針先を内側に向ける事ができません）。第二は、針先が内側を向いた事により、針掛かりしていない残りのフックの、引き上げ途中に於ける、障害物への引っ掛かりの問題を軽減します。磯だけでなく、堤防表面も凹凸が激しいです（外側を向いた従来ギャフの針先はこれ等を擦り上げます→大きな抵抗と針先鈍り）。本ギ

ギャフは引上げ時にはリングが起きますから、針先も起き、表面から離れます（＝浮きます）。小さな凹凸は擦るのではなく回避できます。磯での使用も可能となりました。本ギャフシステムは掛けるのはシステムの力で掛け、障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。

本品は、シーバス、小型青物（ヒラゴ、ハマチ）、クロ（メジナ）、オナガ、イカ等を主体として、0.7kgから10kgの魚を対象とします（最適使用範囲1.3kg～6kg、耐強度25kg）。魚が小さく、重量が小さくとも、刺さりを良くする為、引き刺す力を高めるべく、鉛を取り付け、重くしてあります（180g）。カエシ迄刺さりが到達すれば、抜けません。ギャフ及びシステムの耐強度は25kgですが、ロープ径が4mmですので、引上げ限界は素手で約12～3kgです。ロープ径は最も使用頻度が高いと思われる1.3kgから5～6kgの魚に合わせたものです。ギャフ自体の耐強度は25kgですが、強度は熱による組織変化により、個体差があり、本品はこの数値に関して、如何なる保証も致しません（参考値として留意し、壊れない範囲で使ってください）。本品は約40cmから約70cmの魚に適します。間口寸法とガイド7端からフック12位置までの長さ寸法が魚のサイズにマッチングしている事が高効率なフッキングを実現します。適用範囲を超えた魚であっても、最終的には必ずフッキングします。然しながら、前記間口寸法及び長さ寸法と魚のサイズとのマッチングが効率的なフッキングに重要ですので、5～6kg以上の魚が期待できる、若しくは10～12号以上のハリスを使用して釣りを行う場合は、別途用意の青物取り込みシステムを準備されることを推奨します。従来法で、5mを越える高場から5kgを越える大物を、単独で（自分一人で誰の手助けも無く）、確実性高く取り込む事は、竿が短くて比較的簡単に道糸が掴めるルアーの場合を除いて、事実上不可能でありました。本発明の落とし込みダブルギャフは大物の高場からの単独取り込みを可能にするものです。本ギャフシステムでは、十分に離れた高く安全な場所から、魚にギャフを送りつけ、フッキングさせ、約0.7kgから約13kgまでの魚を足元まで上げることが、完全単独で、高い成功率でできます。然も高い携行性（持ち運び易さ、収納の容易さ・本ギャフシステムはロープを含めて総重量350g、片手で掴める大きさ）を有します。約5mと高距制限のある従来法の大長柄タモでは、アシスト無く一人で6mのタモ柄を片手で操作して、大物を、上下する水面でタモ入れする事は容易ではなく、もたついているうちに、釣が外れて魚が逃げるリスクが高いです。これに対して、本ギャフシステムは、一人である事、距離がある事（更には魚が大きい事ですら）が障害にならず、安定した姿勢を維持したまま、容易且つ確実にフッキングに到達できます（通常10秒から20秒程、長くても一分以内）。其の効用の差は歴然であり、本ギャフシステムの使用方法が知られるにつれ、大長柄タモは無くなる運命にあると言えます。

### 3) 事前準備

出荷時点でロープ5の両端に作ったループの片方51（一端側）をカラビナ2に掛けてあります。輪にしたロープを解いた時点で、キンク（よじれ）が発生している様であれば、キンクを解消しなければなりません。キンクが発生しているのに其れを放置したまま釣りを開始する事は、タモを組み立てないまま釣りを開始することに等しく、致命的です。ギャフを落とす時には片手は竿を支えている訳ですから、残りの片手しか使えません。ギャフを落とす途中でロープが纏れてしまったら、如何にもならなくなってしまいます。纏れはキンクが引き起こします。ロープギャフを使いこなす事はロープを使いこなす事と同義です。ロープには撚りロープと編みロープとがあり、本品は編みロープです。編みロープには撚りは入っておらず、本来、キンクは発生しません。然しながら、ロープは持ち運びする時には通常、輪にして持ち運びます。此の輪にする時に、巻く毎に捻ってしまっているのです（捻るつもりがなくともそうなります）。其のまま、両端を持って引き延ばせば、ロープ内に多数の捻じれが存在する事になります。此れがキンクを引き起こす要因となります。此れを解消するには次の様にします。ロープ端のループ51をカラビナ2から外し、両端の結び53を解いた上で、ロープ端を、手の甲を上に向けた状態で、左手で持ち、その横で親指同志がくっつく形で、右手でロープを軽く持ちます。左手でロープを掴んだまま、ロープを持った右手を水平方向右に大きくスライドさせます。次に左手を右手横に持ってきて、再び左手でロープを掴み、右手を右に一杯までスライドさせ、此れを端までやります。右手をスライドさせる時に右手首を向こう側に少し捻りながらやると尚良いです。今度は反対側の端から同じ事をやります。此れを1～2回やります。此れでキンク（よじれ）は完全に取れます。この作業を、「ロープを抜く」と言います。両端に再びループを作り、その片方51（一端側）をカラビナ2に掛け、安全環25をロックします。最後に他端側（ギャフ1とは反対の側）から、ロープ5を輪に巻き、他端側（ギャフとは反対側）が下に位置し、ギャフ1側が上に位置する様に、ループ体7が手首に掬い取りやすい状態で、足元近くの邪魔にならない場所に、注意を持って配置します。此のロープは細い（4mm）ですから、ギャフが落ちる時にロープが団子（ロープが纏まった状態）にならずに、スムーズに落ちるには、輪の直径を大きくしない方がいいです（直径15cmが適当）。ロープの長さは13mにしてあります。釣り場の状況（＝足場の高さ）はそれぞれ違いますから、ロープ5が長すぎる様であれば、余分な長さの分は、他端側ループ52から3～40cmの所で、長さ10～15cmで折り返しを作り、その部分を輪ゴムで束ねておけば、邪魔にならず、扱いやすいです。此れで準備は完了です。この作業は慣れば一分程で出来る筈です。要するにロープギャフの事前準備とはバッグから出して輪を解いておけばよいという事ではありません。又、此の時、下側に位置している他端側（ギャフとは反対側）のループ（52）が横に出ている状態にしておくことが次の動作をスムーズにします（半とぐる状態の蛇の尻尾が横に出ている状態）。

### 4) 使用方法（特許）

本一般魚取り込みシステムは、通常の小型浮きを使ったカゴ無し浮き釣り（小型カゴ可）、又は小型～中大型リールによるルアーを対象として、ガイド両端（71, 72）をカラビナ（2）に掛け、其れにより、ループ体（7）を完成させ、此のループ体（7）を手首に掛け、手首から元竿上に移し（＝竿尻通し方式）、リールの前へ出し、竿伝い、道糸伝いに落す使い方を基本とします。此の竿尻通し方式で使えるリールは中大型リール迄です。ループ体（7）の正確な内周は、カラビナ内長寸も含めて、約48cmです。購入前に自分のリールをループ体（7）が通過できるかどうか、確認したい

場合は、紐で48cmの輪を作り、竿にリールをセットして、この紐が通過できるかどうか試す事により、確認できます。リールが大きくループ体(7)がリールを通過できない場合は(一通常青物用として使われているリールは全て通過可能、GTマグロ用特大リールは別)、ガイド(7)を巻き体としてリールの前側で道糸(130)ごと竿(110)に巻きつける方法(=巻き付け方式)を実行する事になります。此れに付いては、次項で詳しく述べておりますので、そちらを参照してください。

①魚を寄せた後、竿尻110-1を腹部に位置させ、左手で竿110を支え、右手でリールハンドルを掴んだ基本姿勢から、腰を少し下げ、右手をハンドルから離し、足元近くに事前配置した本ロープギャフのループ体7を右手首に掬い、取る。その状態で竿尻110-1近くを掴み(図2の状態)、竿尻を腹部から外す。

②平面視(上から見た状態)腕方向と竿軸方向とを一致させながら、手首を起こすと、ループ体7が竿尻110-1を通過する(図3の状態)。

③その状態で、竿尻110-1を元の腹部に戻す。

④此れで、ループ体7が元竿110上を通った。そのままループ体7を前進させ、リールを越えてその前に出す(図4の状態)。此れで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの取り付けは完了した。リールの通過は、ハンドルを手前側に位置させ、先にハンドルを通過させた上で、次に本体を通過させればスムーズに行く。本品は1kg前後の魚も取り込めるようにループ体(ガイド7)を小さ目に作っており、本格的なカゴ釣り(=青物釣り)には向きません(小型カゴは可)。ループ体7をリールの前に出したら、カラビナ2から出たロープ5を、竿110を持った左手の人差し指に掛け、右手で足元にあるロープの他端(ギャフの反対側・・・前記半とぐろ状態の蛇の尻尾状)のループ52を掴み、其のループ52を、竿110を持つ左手小指に受け渡す(図6参照)。ロープ5を少し引っ張って、ギャフを引き付ける(ループ体7は竿から浮いた状態)。此れで、落とし込みの準備は整った。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とした方がよい。前記左手人差し指で引き付けたロープを解放し、其れにより、ギャフに勢いをつけて、竿上を滑り落とさせ、ガイドを通過させるのがよい。右手でリールハンドルを回しながら、竿先を下げ、ギャフを竿伝い、ライン伝いに一気に落とす。リールを巻きながら竿先を下げれば、ラインテンションの喪失は起こらない。必要に応じて、魚の突っ込みを利用して竿先を下げるとか、竿の張りを緩める事により、突っ込みを誘発させ、竿先を下げるとかの工夫を加えても良い。ループ体7が竿先を通過したら(通常3~4秒で通過)、再び竿を立てる。

⑤落とし込むと、ギャフセットは口元に到達するので、ロープを右手で持って、肘を支点に、鯛のテンヤ釣りをする要領で、手先を上下させてやると(図7の状態)、程無くズシリと重みが掛かる(魚を見て操作する必要は無い)。

⑥重みが掛かると同時に、ロープを引っ張り上げると、ガシリとギャフが食い込む(図8の状態)。針先の食い込みが、カエシ迄到達すれば、カエシ14が効いてギャフが外れる事はないが、食い込みが浅く、カエシまで到達していない場合は、魚が暴れる事により、針先が外れ、2~3回のやり直しもありうる。特に魚が小さい場合は魚自体の重量が小さく、反力が弱い為(=針先の引き抜く力に対して、魚自体が動いてしまう為)、掛かりが浅くなりがちであり、条件は悪い。フックの食い込みがカエシ迄到達すれば、外れる事はまずないので、リールのドラッグを緩め、竿を置いて、両手で引上げを開始する。

## 5) ループ体(7)を巻き体として道糸ごと竿に巻く方法(特許) →図5参照

前4)項で述べた通り、ループ体の内周は、カラビナ内側長寸も含めて、約48cmであり、リールを竿にセットした状態で竿及びリールの外周の寸法が48cm以上になるリールには、ループ方式(竿尻通し方式)が実行できません(通常、青物用として使用されている大型スピニングリールは通過可能、但しGTマグロ用特大スピニングは無理)。両軸だと中型迄、アブ10000、ダイワ400Hクラスは楽勝。本ループ体が自分のリールを通過できるかどうか、事前に確認したい場合は、紐で48cmの輪を作り、竿にリールをセットして、この紐が通過できるかどうか試す事により、購入前確認ができます。通過できないリールに対して、本システムを使用する場合、竿巻き付け方式(リールの前側で竿に巻く)を実行する事になります。

ループ体(7)の両端に設けてある小ループ部71, 72の片方72(他端)をカラビナ2から外しておいて、取り込み時に、リールの前側で巻き体(ラッピングコード)として道糸ごと元竿110に巻いてカラビナ2に掛けてやる事ができます。ロープに関する準備は、3)事前準備で説明したのと同じです。先ず、前記小ループ部71, 72の片方72を外します。其れにより、カラビナ2にはギャフ1のリング13を真ん中にして、手前側(ギャフの背側)にロープのループ51、先側(ギャフの前側)に線状となったコード7(巻き体=ラッピングコード---竿尻通し方式に於けるループ体7)の小ループ部71(一端)が位置します。コード7の小ループ部71, 72は手で持ってはカラビナ2の安全環を通過出来るも、手を離せば安全環に引っ掛かって其処で止まる寸法に製作してあります。図5を参照し、小ループ部の一方71が安全環25の上側に位置しているのを確認してください(他方72はカラビナ2の外)。そうならないと、一方71を、安全環25を超えて上側に移動させてください。ポジショニングは、カラビナ2の背側から前側に向かってロープのループ51、ギャフリング13、安全環25、ラッピングコード7のループ71となります。その後、安全環25を回して開口部のスペースを縮め、リング13(6mm)及びロープループ51(4mm)は外れないも、コード7の小ループ部の片方72(2mm強)は入れられるスペース(3mm程)は開けておきます。即ち、カラビナの安全環25を前側(フック側)に位置させ、ロープ(4mm)もリング(6mm)もスペース(3mm)から外れる事はできず、且つコード7の小ループ部の一方71(2mm強)は安全環の上側に行き、其処で引っ掛かっているため、此れも外れる事は無い状態にしておきます(指はカラビナ2の背側のロープループ51とコードループ71の間に挿入する事になります)。此処までが事前準備です。魚が掛かって、ファイトを経て、竿下まで魚を寄せました。此処から、ギャフ掛けの全ムーブの開始です。

①基本体勢を維持したまま、腰を少し下げ、右手をリールハンドルから離し、右手の指を、ギャフセットの安全環付きカラビナ2のロープループ5 1とコードループ7 2の間に掛け、取る。

②次に、竿1 1 0を持っている左手の人差し指を開き、右手人差し指から、左手人差し指にカラビナ2を受け渡す（左手人差し指はロープループ5 1とコードループ7 1の間）。各部材は重みがあるので、ギャフのリング1 3とロープのループ5 1はカラビナの下側に位置し、コード7の小ループ部（7 1）は左手人差し指の前側で安全環2 5の上に引っ掛かっている。

③左手人差し指も合わせて竿1 1 0を握る。即ち、左手の他の四本の指は直接竿1 1 0を握り、左手人差し指はカラビナ2を間に挟んで竿1 1 0を握る事になる。

④次に、右手で、反対側7 2がフリーになってぶら下がっている巻き体＝ラッピングコード7を掴み、竿1 1 0を越えて、反対側に投げ下ろす。

⑤すると、コード7は、フリーの側7 2が竿1 1 0の向こう側に垂れ下がる。

⑥右手を竿1 1 0及び道糸1 3 0の下側から伸ばし、フリーになっている、コード7の他端側ループ7 2を掴む。

⑦摘んだループ7 2をカラビナ2の開口部（スペース）から、カラビナ2内部に入れる。

⑧右手でカラビナ2の安全環2 5を回し、開口部をロックする。これで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの竿1 1 0への取り付けは完了した。コード7はリール前でループを形成し、前項におけるループ体（7）と同じ状態になっている（竿尻通し方式でやった図4と同じ状態）。

⑨次に、カラビナ2から出たロープ5を、竿1 1 0を持った左手の人差し指に掛け、右手で足元にあるロープの他端（ギャフの反対側・・・前記半とぐる状態の蛇の尻尾状）のループ5 2を掴み、其のループ5 2を、竿1 1 0を持つ左手小指に受け渡す（図6参照）。ロープ5を少し引っ張って、ギャフを引き付ける（図6参照、ループ体7は竿から浮いた状態）。これで、落とし込みの準備は整った。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とす方がよい。左手人差し指で押さえたロープ5を解放し、其れにより、ギャフに勢いをつけて、竿上を滑り落とさせ、ラインガイドを通過させるのがよい。右手でリールハンドルを回しながら、竿先を下げ、ギャフを竿伝い、ライン伝いに一気に落とす。リールを巻きながら竿先を下げれば、ラインテンションの喪失は起こらない。ループ体（7）が竿先を通過したら（通常3～4秒で通過）、再び竿を立てる。

⑩以降は、前項4）使用方法の⑤以降と同じである。

## 6) 使用上の注意

A) ギャフ掛けのムーブに入る時は、ドラッグを少し緩めてバランスを崩す事が無い様にしてから、入って下さい。

B) ギャフセットを手首に通す時はループ体7に背側から通して二本のフック1 2の針先が出来るだけ指先側（＝魚側）を向くようにしてください。

C) ロープの他端側（ギャフとは反対側、図6の5 2）をボディ（体）の何処かに固定する事は、危険ですから、してはいけません（魚に引っ張られてバランスを崩す危険があります）。左手小指にループ5 2を掛けるやり方の他に、他端側のループ5 2にカラビナを掛け、クーラーや餌バケツ等の取っ手又はハーケンに掛けたシュリングにこのカラビナを掛ける事もできます。

D) 中通し浮きにケミホテルを立てる事はできません。本システムは、小型浮きを使用し、カゴを使わない釣りに使用するのに適しています。ケミホテルを使用する場合、ケミに付属しているチューブの、ケミを挿し込むのとは反対の側の端（口）から1 cmぐらいの所の側面にノッチ状切り込みを入れ、スナップ付きタル型サルカン（又はダブルスナップ付きサルカン---此れにすれば、明るくなったら、道糸を切らなくても簡単に取り外せる）のゲートを、前記チューブの他方の口から挿入して、切り込みから出して固定した上で、サルカンの他方のリング（又は他方のスナップ）を浮き止めビーズと浮きの上に位置させる事も一つのやり方として可能です。この場合、上から、浮き止め、ビーズ、ケミを取り付けたチューブに取り付けられたサルカンのリング、浮きとなります。

E) 仕掛け周辺をガイド（ループ体）7がスムーズに通過出来る事を事前に確認して下さい。スムーズにいかない場合は、何か「角」が存在している筈ですから、その「角」を解消して下さい。

## 7) 保守管理

本品はステンレスですが、使用后放置すれば、含有カーボンの影響により、多少の錆がきます。Stainless とは錆びないという意味ではなく錆びにくいという意味です。ステンレスにはその組成により、多くの鋼種があり、本品フック部は高強度特殊鋼を使用しておりますが、本鋼種は、一般的な鋼種（SUS 304、等）に比較して、強度面に於いて勝りますが、防錆力に於いて劣ります。釣行後は速やかに水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取って、防錆油を吹き付けた後、其れを乾いた別の布で軽めに拭き取り、保管する事をお勧めします。その時点で既に錆がきていた場合はサンドペーパー等で錆を落とした上で同作業を行ってください。釣行前には必ず針先のチェックを行い、鈍っていれば、必ずヤスリ又は砥石等で針先を研いで、油を針先に塗布して、持参してください。針先が鈍って魚体表面を滑ってしまつてはフッキングしない訳です。本ギャフでは針先の鋭さは手の甲に当ててチクリと痛みが走る事が必要です。磯でなく堤防であっても、コンクリート表面には固い小石が混ぜられている事が多く、凹凸が激しいです。魚の重みが掛かった状態で、フッキングしていない残りのフックが表面を擦りながら、上がってくることになる訳ですから、ギャフは過酷な仕事をさせられます。ユーザーの、針先の鋭さに対する感性が無かったら、本ギャフはその能力をフルに発揮できません。本ギャフはフックの針先を内側に少し曲げています。従来のギャフは掛ける事だけを考え、針先を外に向けてきました。フックは物（障害物）と魚とを区別しません。本ギャフでは、そのシステムの威力が絶大である為、針先の張り出しや、フックの本数に頼る必

要はありません。フックの針先が少し内側に向いている為（其れでもちゃんと掛かります）、魚引き上げ時には、リング13が起き（堤防又は堤防表面から離れ）、フッキングしていない残りのフックの針先は表面を擦るのではなく、表面から少し浮く（離れる）形となります。此れにより、フッキングしていない残りのフックは、表面の小規模な凹凸は、擦るのではなく、かわすことができます。此れは針先の鈍りを抑えるのに役立つでしょう。磯での使用も可能となりました。本ギャフは、掛けるのはシステムの力で掛け、引上げ時の障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。以上の工夫をしている訳ですから、高い感性を持って針先の鋭さに常に注意を払ってください。本落とし込みダブルギャフは「ギャフ」の名称で特許が取得できた日本で唯一の製品です（此の事は特許庁のIPDLで事実確認できます）。其の機能の高さは公正な第三者により認められたものであり、本ギャフを使いこなす事（＝ロープを使いこなす事）は必ずや貴方の釣果向上に役立つでしょう。

## 8) システム比較

本一般魚取り込みシステムと青物取り込みシステム（別品）との仕様比較は下記の通りです。

システム	サイズ	耐強度 kg	ロープφm	適用高距 m	適用範囲 kg	最適範囲 kg	用途
一般魚用	小	25	4-13	3-12	0.7-10	1.3-6	浮き釣り、ライトルアー
青物用	大	70	6-15	3-14	2-20	3-15	カゴ釣り、本格SWルアー

製造販売、服部商会

〒862-0901 熊本県熊本市東区東町 4-16-9-406

TEL, FAX : 096-365-0269 E-Mail :